

洗礼者聖ヨハネの誕生

2012.6.24

ルカ 1・57-66・80

今日 6月 24 日は洗礼者聖ヨハネの誕生を祝う祭日です。洗礼者聖ヨハネの誕生を祝うこの祭日には、単に、聖人のお祝い日というだけに留まらない意味があります。

どの福音書を開いて見ても、洗礼者ヨハネはイエス・キリストに先立って登場し、「私の後から来られる方」ということばによって、人々にイエス・キリストを指し示したイエスの先駆者、イエス・キリストの偉大な最初の証人として位置づけられています。

今日のミサの中で私たちが聴いたルカ福音書は、イエス・キリストの先駆者としての洗礼者ヨハネの誕生にまつわる物語から始まっています。ルカ福音書はその冒頭に、イエス・キリストの誕生に先立って、洗礼者ヨハネの誕生の不思議さを語ることによって、神がイエス・キリストによってもたらされた救いの御計画が実現し始めていることを語ろうとしているのです。教会が一年の典礼の暦の中ほどに、毎年洗礼者ヨハネの誕生を祭日として祝い、そのミサの典礼に私たちを招いているのは、神がイエス・キリストによってもたらしてくださった救いの御計画の神秘をあらためて私たちに味あわせるためです。

聖書全編を通して語られている、罪に堕ちた人類に対する神の救いの御計画は、神が人類の救いのためにお遣わしになった神の御子イエス・キリストの十字架の死と復活によって実現しました。このことを信じるのが私たちの信仰です。私たちは洗礼を受けることによって、このようなキリスト教の信仰を受け入れてカトリック信者となりました。私たちが受け入れているこの信仰に基づけば、私たちは洗礼を受けることによって、イエス・キリストの十字架の死と復活によってもたらされた神の救いの恵みを受けて、全ての罪を赦され、神の永遠のいのちにあずかる者たちとされたのです。

聖書に示されているイエス・キリストにおいて実現した神の救いの御計画は、そのイエス・キリストの救いを信じる信仰の中に私たちを招き入れることによって、私たちの上にも実現している、私たちに向けられた神の救いの御計画であったのです。しかし、イエス・キリストにおいて実現した神の救いの御計画は、その救いを信じる信仰を支えとしてこの世に生きる私たちにとって、いつもこれから起こるべき、新しい救いの出来事でもあり続けます。

私たちは今年も主イエス・キリストの復活を祝い、「わたしは世の終わりまでいつもあなたがたとともにいる」という復活されて私たちとともにいてくださ

るイエスの力強いみことばを新たな心で受け入れました。しかし、復活されて私たちとともにいてくださるイエスが、「わたしは世の終わりまでいつもあなたがたとともにいる」と言われるのは、私たちが世に留まっていることを知っていてくださるからでもあります。私たちは「わたしは世の終わりまでいつもあなたがたとともにいる」と言われるイエス・キリストを信じながらも、この世に生きる者たちです。そして、この世に生きる私たちは、この世の生活の中で、「わたしは世の終わりまでいつもあなたがたとともにいる」と言われる私たちの主イエスを見失ってしまいがちです。この世の生活につきもののさまざまな思い煩いに身も心も押しつぶされて、「わたしは世の終わりまでいつもあなたがたとともにいる」と言われる、私たちが信仰によって受け入れているはずの主のみことばが私たちに奮い立たせなくなってしまうを感じています。

そのような私たちは、常に新たに「わたしは世の終わりまでいつもあなたがたとともにいる」と言われる私たちの主イエスのもとに立ち戻らなければなりません。けれども、この世に生きる私たちには、そのこと自体が難しいのです。だから、私たちが主イエスのもとに立ち戻ることが出来るために、私たちはその前に、「わたしは世の終わりまでいつもあなたがたとともにいる」と言われるお方が、新たに、私たちのもとに来て下さることを願い求めなければなりません。「世の終わりまでともにいる」と言われる私たちの主イエスは、常に新たに私たちのもとに来て下さるべきお方なのです。そのようにして、「わたしは世の終わりまでいつもあなたがたとともにいる」と言われる私たちの主イエスは、この世を生きる私たちとともにいてくださるのです。

今日私たちが祝う洗礼者ヨハネの誕生は、ルカ福音書の最初の出来事として語られている、父親のザカリアに対する天使のお告げの実現です。天使のお告げのあまりの途方もなさに、思わず「何によって、私はそれを知ることが出来るでしょうか。」と問わざるを得なかったザカリアの問に答えて、神は天使が告げたとおりのことを実現してくださったのです。これが、ルカ福音書が語る洗礼者ヨハネの誕生物語の私たちへのメッセージです。神が告げてくださったこと、神が約束してくださったことは必ず実現する。ザカリアとエリザベトを囲んで、その子の誕生を喜び合った人々の喜びは、洗礼者ヨハネの誕生を祝う教会の喜びでもあるのです。

天使のお告げを受けた時、ザカリアは思わずつぶやきました。「何によって、わたしはそれを知ることが出来るでしょうか。わたしは老人ですし、妻も年をとっています。」このザカリアのつぶやきは、私たちのつぶやきでもあります。「わたしは世の終わりまでいつもあなたがたとともにいる」と言われるお方に対して、私たちもザカリアと同じように、「何によって、それを知ることが出来

るでしょうか」と問いたくなります。何故なら、私たちが生きる日々の中で、私たちには「わたしは世の終わりまでいつもあなたがたとともにいる」と言われるお方の存在が見えないからです。私たちが信じているそのお方の約束にも関わらず、私たちの生きる日々の中には、どうしてこんなことがと思わざるを得ないことが次々と起こってくるからです。私たちが期待していることはいつまで経っても実現しそうにもないと思われるからです。

そのような私たちに対して、私たちが信じているお方は、今日私たちが聴いた洗礼者ヨハネの誕生を告げる福音を通して応えていてくださるのです。そしてその洗礼者ヨハネを先駆者として、私たちのもとに来てくださるのです。

「何によってそれを知ることが出来るでしょうか」とつぶやいてはならないのです。そのようにつぶやかざるを得ない状況の中で、ザカリアがそうであったように、語るべきことばを失ったとしても、祈るべきことばを失っても、なお、神の約束を信じて待ち続けなければならないのです。そのような時の流れの中で、「わたしは世の終わりまでいつもあなたがたとともにいる」と言われるお方の訪れを待ち続けることこそが、私たちの信仰なのです。この信仰に私たちが信じるそのお方は必ず応えてくださる。今日の福音が告げるこの力強いメッセージが私たちを支えることを願って、今日の洗礼者ヨハネの誕生を祝うミサをともにおささげしたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高